

戸山高校SSH「海外サイエンス」自己評価基準表 国際社会に貢献するトップリーダー育成

| | | A1 | A2 | B1 | B2 | C1 | C2 |
|-------------|------------------|---|---|---|---|--|---|
| | | 基礎的学習者 | | 実践的学習者 | | 突出した学習者 | |
| アウトカムズ | 技術/段階的範囲 | 個人力 | | チームプロジェクトの実践能力 | | 国際社会への貢献 | |
| 論理的思考力 | 課題の発見と発展 | 与えられた課題の現状を論理的に把握する為の情報を、個人で収集することができる。 | 与えられた課題であれば、個人で情報を論理的に整理し、新たな課題を自ら見出し、整理することができる。 | 与えられた課題ではなく、自分で論理的に、現状のデータを分析した上で考えた、新たな課題を見出すことができる。 | 与えられた課題ではなく、チームで論理的に考えられるよう、自分の意見を理路整然と説明しチームで共有することができる。 | 限定されたチームで、今までに発見されていない研究を理論的に進めることができる。対外的な人にも論理的に説明することができる。 | 国際的なチームでも、今までに発見されていない研究を理論的に進めることができる。数学的、論理的な分析手法を編み出すことができる。 |
| 学習力 | 学習管理、研究姿勢 | インターネットや書籍を通じて新たな情報を収集することができる。収集したデータを整理することができる。学習をパーソナルなプロジェクトとして意識できる。 | インターネットの掲示板などを利用して新たな情報と他者と共有することができる。学習をパーソナルなプロジェクトと意識し、管理する姿勢を持っている。専門家のワークショップなどに個人で参加して質問することができる。 | 日本語のメールや手紙なども利用して、遠隔にいる専門家とラフなコミュニケーションをとることができる。自分の研究のアプローチの工程をある程度管理することができる。 | 公的な英語のメールや手紙なども利用して、遠隔にいる専門家とコミュニケーションをとることができる。次のステップの課題を自ら見出し、チーム全体を動かす詳細な工程を管理することができる。専門家とのインタビューをチームで企画し、記録ができる。 | 限定されたチームで、公開できるレベルのプロジェクトに対して、テレビ会議なども利用しながら議論を進め、円滑に取り組むことができる。学習の過程における学習記録を限定されたチームで共有することができる。 | 国際的なチームで、学会などで発表できるレベルのプロジェクトに対して、協働で調査し、役割分担をしながら、テレビ会議なども利用して、学問を追究することができる。学習の過程における学習記録を国際的メンバーが共有できるように残すことができ、計画の変更にも柔軟に対処し、研究のレベルアップを図ることができる。 |
| プレゼンテーション能力 | 英語論文、英語プレゼンテーション | 個人で論理的な考察を加えた文章を書くことができる。自分の考えをある程度論理的に他者に伝えられる。 | 個人で日本語論文を書くことができる。日本語で個人論文発表ができる。個人で質疑応答にきちんと対応できる。 | 共同での論文製作プロジェクトに円滑に参加できる。役割分担を意識した論考データを収集し、仲間と共有できる。日本語論文完成に寄与できる。 | 共同執筆日本語論文を書くことができる。国内学会で論文発表ができる。 | 共同執筆英語論文を書くことができる。国内の学会、研究会等で英語で論文発表ができる。 | 学会誌で採用されるレベルの査読付き共同執筆英語論文を書くことができる。国際学会で英語で論文発表ができる。 |
| | | A1,A2,B1,B2,C1,C2の順番でレベルが上がっています。順番に読んで、自信がない表現の文章の下に下線を引いてください。その下線を引いたレベルの前のレベルがあなたの現時点でのレベルになります。また下線部が現在強化していく必要のあるあなたの目標となります。 | | | | | |